

5. 就労状況と就業意識

5-1. 職業

5-1-1. 本人の職業(Q25-1)

【男性】

【若年無子家族】では「販売・サービス職」(24.7%)と「専門職」(28.7%)が多い。一方、【継続無子家族】は他のグループに比べて「管理職」が多く、【若年一人っ子家族】は「労務・技能職(36.0%)」が多いのが特徴。

【女性】

専業主婦率は、【若年一人っ子家族】では54.7%と、半数を超えているが、【継続無子家族】では35.3%、【若年無子家族】では27.3%にとどまっている。

5-1-2. 配偶者の職業(Q25-2)

【男性】

女性の本人職業と同様の傾向がある。専業主婦率は【若年一人っ子家族】で59.3%と高く、【継続無子家族】では37.3%、【若年無子家族】では30.0%になっている。

【女性】

【継続無子家族】は他グループに比べ「管理職」が多く、「販売・サービス職」が少ない。

図表:5-1. 本人及び配偶者の職業(単数回答)(基数:全体)

		労務・技能職	販売・サービス職	事務職	専門職	管理職	農・林・漁業従事	専業主婦	学生	無職	その他	無記入
各グループN=150												
本人	若年無子家族男性	23.3	24.7	16.7	28.7	4.7	0.7	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0
	継続無子家族男性	24.0	14.0	16.0	25.3	14.7	2.0	0.0	0.0	0.7	3.3	0.0
	若年一人っ子家族男性	36.0	15.3	14.0	24.7	6.0	0.0	0.0	0.0	0.7	3.3	0.0
	若年無子家族女性	6.7	25.3	25.3	13.3	0.0	0.0	27.3	0.7	0.0	1.3	0.0
	継続無子家族女性	6.0	17.3	21.3	16.7	0.0	2.0	35.3	0.7	0.0	0.7	0.0
	若年一人っ子家族女性	4.7	15.3	16.7	8.0	0.0	0.0	54.7	0.0	0.0	0.7	0.0
配偶者	若年無子家族男性	7.3	18.7	22.7	18.0	2.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	1.3
	継続無子家族男性	4.7	16.7	24.7	12.0	1.3	2.0	37.3	0.0	0.0	0.7	0.7
	若年一人っ子家族男性	3.3	9.3	15.3	11.3	0.0	0.0	59.3	0.0	0.0	0.7	0.7
	若年無子家族女性	26.0	24.0	16.7	22.0	7.3	0.0	0.0	0.0	1.3	2.0	0.7
	継続無子家族女性	24.0	11.3	12.0	23.3	18.0	2.7	0.0	0.7	2.7	4.0	1.3
	若年一人っ子家族女性	26.0	26.0	14.7	20.7	8.0	0.0	0.0	0.0	1.3	2.0	1.3

5-2. 就労形態

5-2-1. 本人の就労形態(Q26-1)

【男性】

どのグループも常勤(正社員・正職員)が7~8割を占めており、あまり違いは見られない。

【女性】

常勤(正社員・正職員)の割合は無子家族グループでは3割を超えているが、【若年一人っ子家族】では26.5%と低い。このグループでは6割以上が「パート・アルバイト」である。

5-2-2. 配偶者の就労形態(Q26-2)

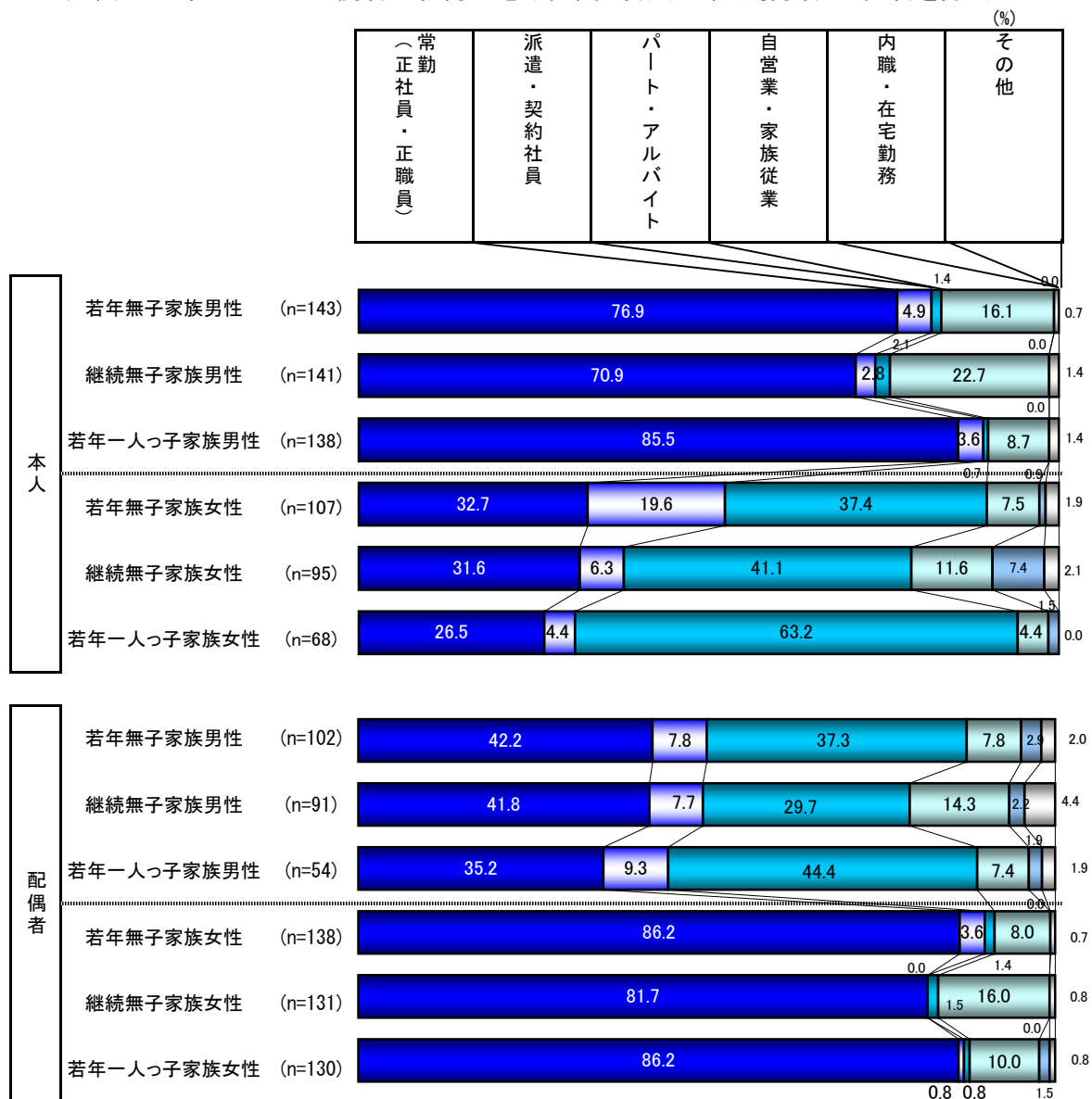
【男性】

常勤(正社員・正職員)比率は無子家族グループでは4割、【若年一人っ子家族】では3割。

【女性】

どのグループも「正社員・正職員」が8割以上を占めており、あまり違いは見られない。

図表5-2. 本人および配偶者の就労形態(単数回答)(基数:勤労者・無回答を除く)



5-3. 本人および配偶者の就労時間

5-3-1. 本人の就労時間(Q27-1)

【男性】

1日の平均就労時間は【若年無子家族】(9.9時間)が最も長く、以下、【継続無子家族】(9.6時間)、【若年一人っ子家族】(9.4時間)の順になっている。

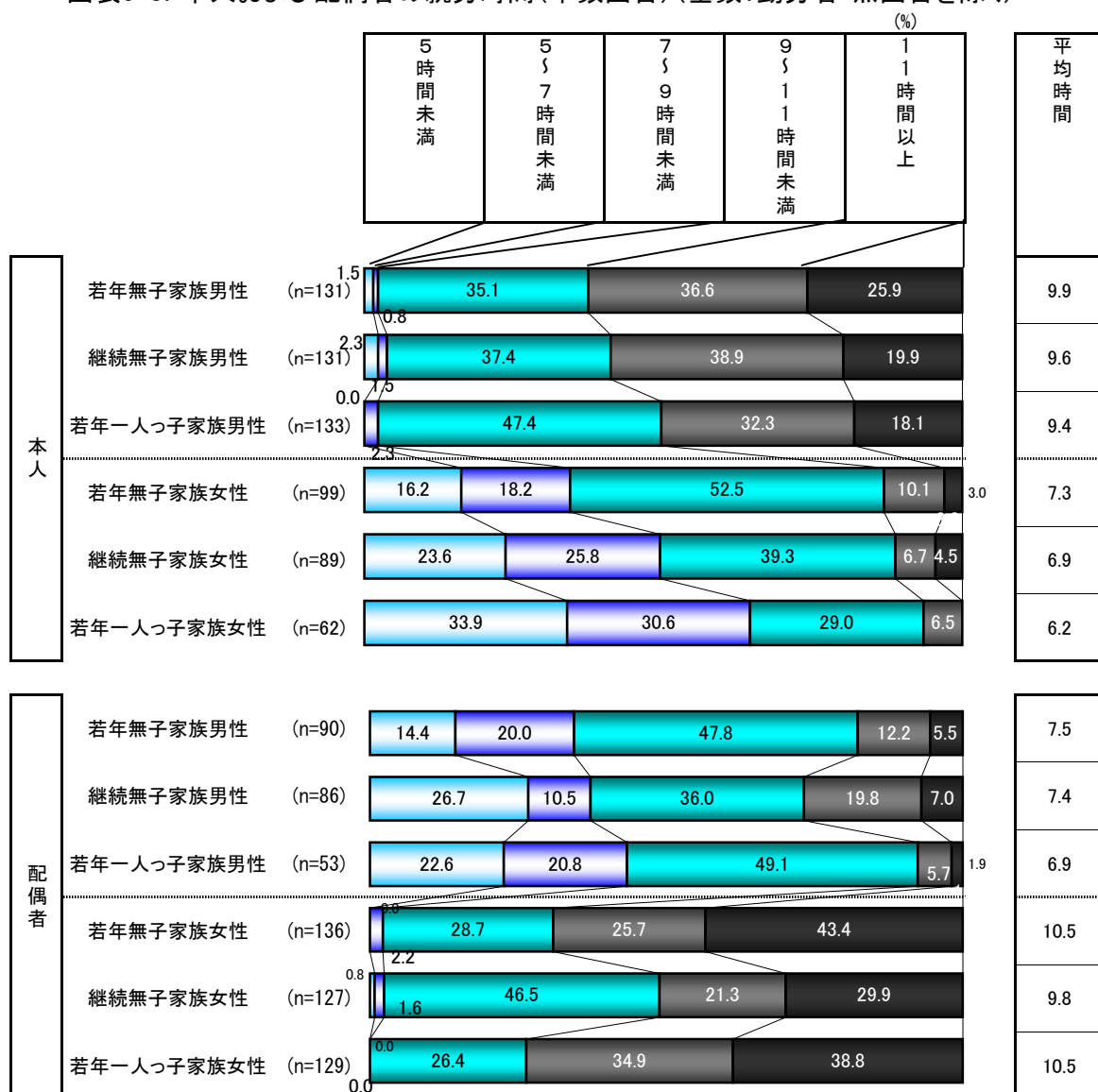
【女性】

常勤(正社員・正職員)の多い【若年無子家族】が7.3時間で最も多く、【継続無子家族】(6.9時間)、【若年一人っ子家族】(6.2時間)の順である。

5-3-2. 配偶者の就労時間(Q27-2)

男性の場合、女性本人の平均就労時間とはほぼ同様の傾向になっている。女性ではどのグループも10時間前後で、【継続無子家族】(9.8時間)がやや短い程度である。

図表5-3. 本人および配偶者の就労時間(単数回答)(基数:勤労者・無回答を除く)



5-4. 年次有給休暇の取得状況(Q27-②)

5-4-1. 本人の取得状況

【男性】

年次有給休暇を「全て/ほとんど消化」している人の割合は、どのグループも1~2割程度にとどまり、6割前後は「全く/ほとんど消化していない」と答えている。特に、取得状況が芳しくないのは【若年無子家族】で「全く/ほとんど消化していない」が63.9%に達している。

【女性】

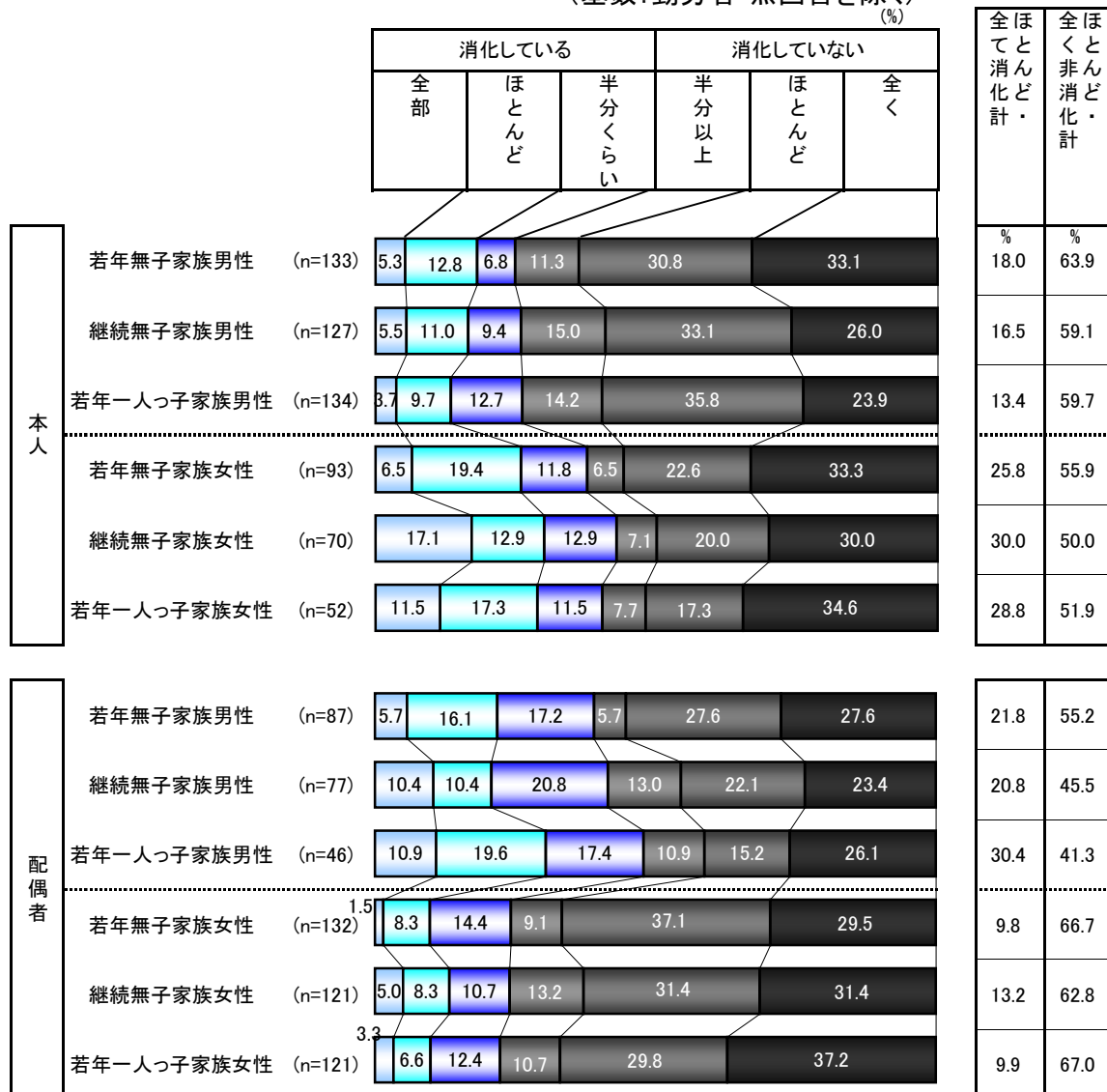
男性よりは消化しているが、それでも「全く/ほとんど消化していない」と答える人が5割存在する。特に【若年無子家族】では55.9%と男性同様高い。

5-4-2. 配偶者の取得状況

本人の取得状況に対する回答とほぼ同様の結果となっているが、女性からみた配偶者の有給消化状況に対する認識は、男性本人の回答に比べてさらに厳しいものとなっている。

図表5-4. 本人および配偶者の年次有給休暇の取得状況(単数回答)

(基数: 勤労者・無回答を除く)



5-5. 現在の仕事と私生活のバランスの状況(Q28)

現在の生活を仕事と私生活にわけ、どちらが中心かについて質問した。

【男性】

「仕事より私生活が中心」と答えた人はどのグループにおいても1割に満たない。「仕事と私生活のバランスのとれた生活」と答える人もさほど多くなく、「仕事中心」とする人が半数を超えている。特に【若年無子家族】では「仕事中心」が69.4%と多い。

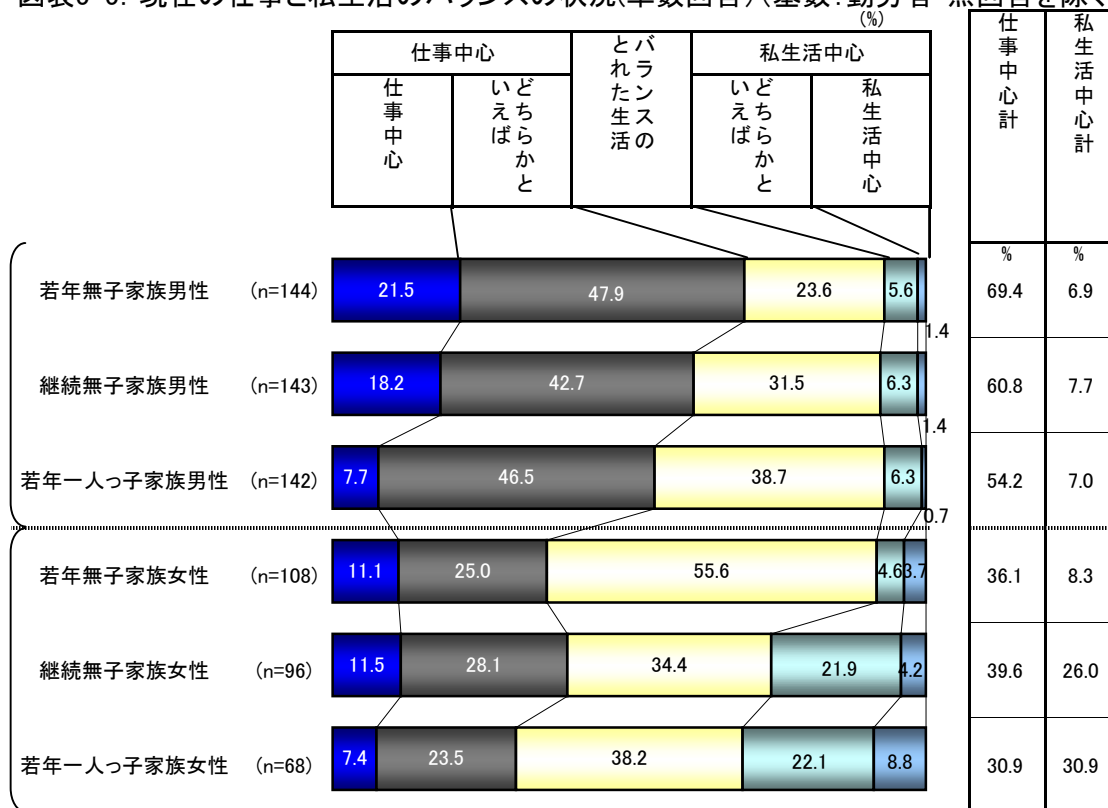
これに対し、【若年一人っ子家族】では「仕事中心」は54.2%にとどまり、「バランスのとれた生活」が38.7%と、各グループの中で最も高くなっている。

【女性】

【若年無子家族】では「バランスのとれた生活」が55.6%と、他グループに比べて多い。

一方、【継続無子家族】では「仕事中心」(39.6%)が「バランスのとれた生活」(34.4%)をやや上回っている。また【若年一人っ子家族】は「仕事中心」と「私生活中心」(各30.9%)が同率になっている。

図表5-5. 現在の仕事と私生活のバランスの状況(単数回答)(基数:勤労者・無回答を除く)



5-6. 仕事の充実度(Q29)

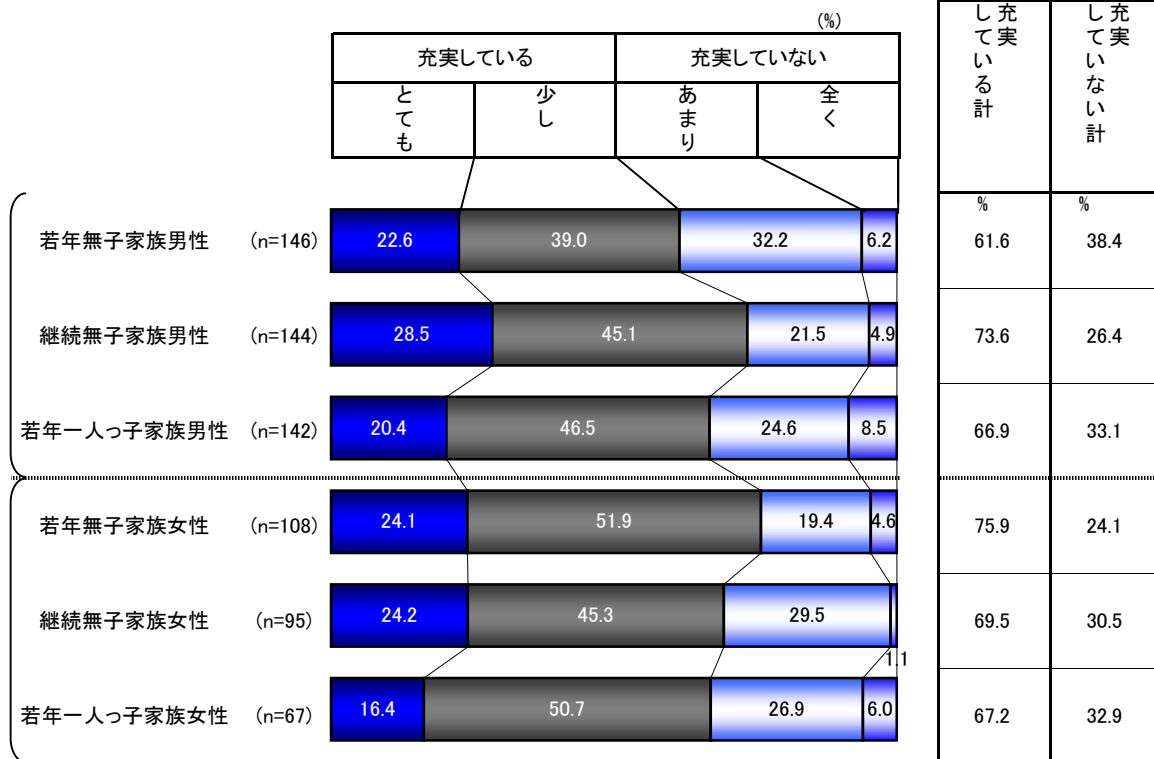
【男性】

どのグループにおいても、6割から7割が仕事に充実感を感じているが、中でも【継続無子家族】が73.6%で最も高い。

【女性】

どのグループにおいても、7割前後が仕事に充実感を感じているが、中でも【若年無子家族】が75.9%で最も高い。

図表5-6. 仕事の充実度(単数回答)(基数:勤労者・無回答を除く)



5-7. 仕事継続意向時期(Q30)

【男性】

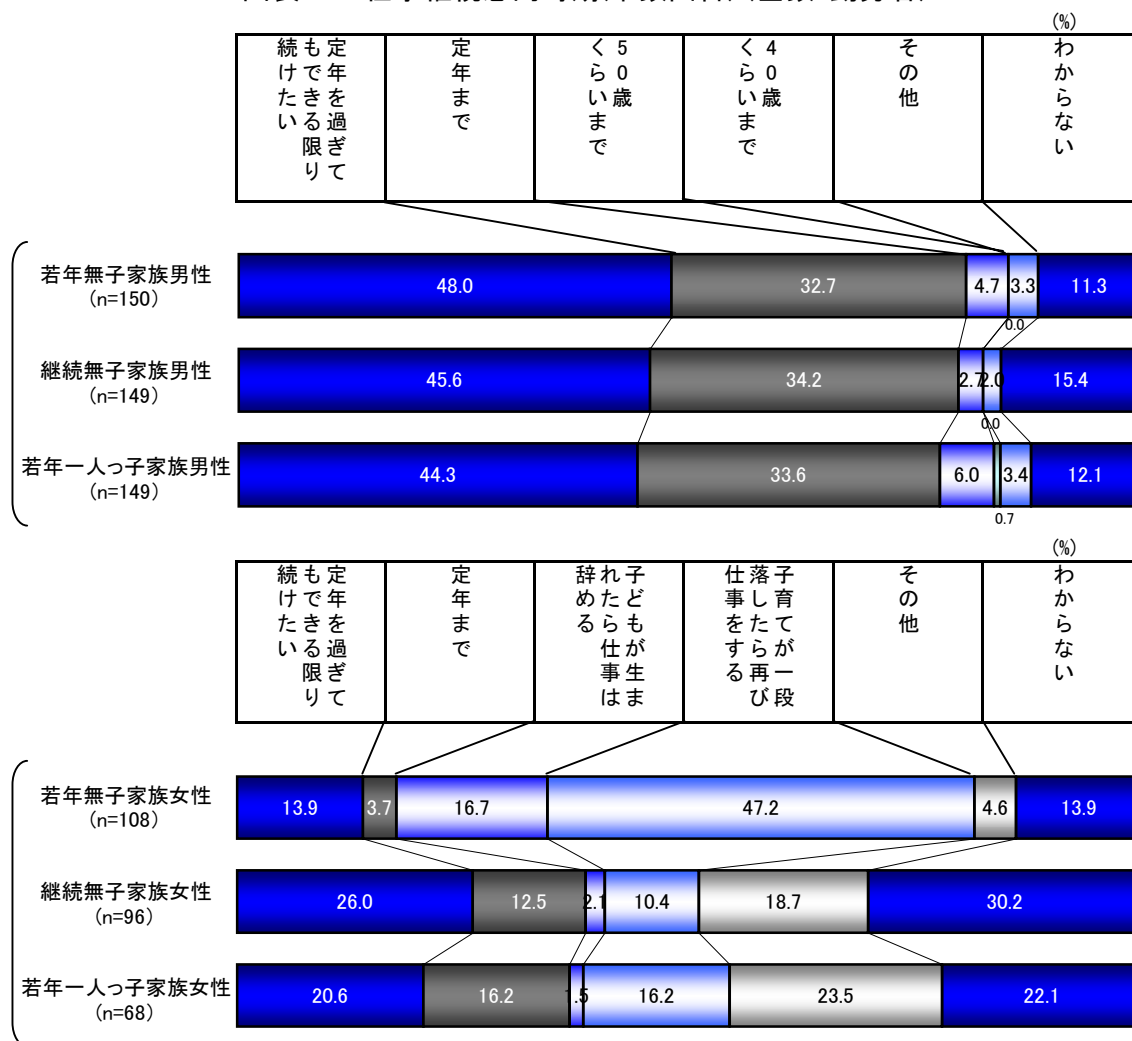
どのグループにおいても、「定年を過ぎてもできるかぎり続けたい」が最も多く、4～5割を占めている。次いで「定年まで」が3割強でこれに続いている。

【女性】

【若年無子家族】では、今後子どもを持つつもりの人が多いためか、「子どもが生まれたら辞める」(16.7%)「生れたら辞めて子育てが一段落したら再び仕事をする」(47.2%)との回答が多い。

一方、【継続無子家族】は「定年まで／定年を過ぎても続けたい」(38.5%)と「わからない」(30.2%)が多くなっている。

図表5-7. 仕事継続意向時期(単数回答)(基数:勤労者)



5-8. 働いていない理由<女性>(Q31)

専業主婦に働いていない理由を聞いたところ、【若年一人っ子家族】では「家事や育児の忙しさ」が78.0%と、最大の理由になっている。

一方、無子家族の理由は様々で、【若年無子家族】では「家にいるのが楽しいから」(19.5%)、「求職中だが就職先が見つからないから」(17.1%)、【継続無子家族】では「経済的に働く必要がないから」(30.2%)が最も多く、「仕事以外に趣味等でやりたいことがあるから」(18.9%)等が続いている。また、働かない理由として「健康に不安がある」をあげた人は、無子家族グループのそれぞれ2割弱みられる。

図表5-8. 働いていない理由(複数回答)(基数:学生除く女性の非勤労者)

